

## はじめに

都議会自民党は、服部ゆくおを団長として、山加朱美議員、吉原修議員、鈴木あきまさ議員の4名で、平成22年11月4日から12日まで、フランス及びオランダにおいて、市場事業、河川事業、医療・福祉施策の調査を実施した。

市場事業については、世界最大級の規模を誇るフランスのランジス市場とオランダのアールスメア市場を調査した。市場外流通の拡大、市場の競争力やハブ機能の強化、物流コストの削減、食の安全・安心のため高度な衛生・品質管理機能を備えた市場にすること、ブランドマネージメント戦略の重要性など、参考にすべき点が多くあった。

河川事業については、フランスのアヌシー市とオランダのアムステルダム市を調査した。都議会自民党は、かねてより「水の都東京再生」に取り組んでいるが、両都市からは、水辺の賑わい創出や花と緑の街づくり運動、係留施設や船着場の管理ルール等、示唆に富んだ意見が伺えた。

医療施策については、医療保険制度、かかりつけ医制度、周産期医療等の調査のため、フランスの州保健庁やオランダの公立大学病院等を訪問するほか、医療制度研究コーディネーターとの意見交換などを精力的に実施した。

福祉施策については、フランスのNPO団体やオランダの高齢者施設等を調査した。フランスでは、資金のない若者と一人暮らしの高齢者をマッチングする仕組みや運営上の課題を、オランダでは、重度の知的障害児ケアである「スヌーズレン」を認知症高齢者ケアにも取り入れており、その取組み状況や効果について調査した。

最後に、今回の調査を通して、多くの方々から賜ったご好意に、この場をお借りして、心より感謝を申し上げたい。

団長 服部ゆくお